

# 第 1 回 第 2 次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議

令和 7 年 1 1 月 2 1 日（金曜日） 9 時 3 0 分

美幌町役場 第 2 会議室

## 議題

- 1 開会・委員委嘱
- 2 副町長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 策定会議の基本事項について  
(会長・副会長の選出、会議の開催回数・策定スケジュール)
- 5 観光振興革新戦略ビジョンの位置づけ・目的の共有  
(町総合計画との関係、策定の目的、計画期間、観光の現状と課題)
- 6 現行ビジョンの検証、次期ビジョンの基本方針の確認  
(現行ビジョンの成果と課題、次期ビジョンに盛り込むべき方向性の意見交換)
- 7 今後の進め方の整理（第 2 回以降の議題、次回日程の確認）

## 配付資料

- 資料 1 (現行) 美幌町観光振興革新戦略ビジョン
- 資料 2 観光入込等の推移、アクションプランの実績
- 資料 3 事業所アンケート (案)

### 3 委員紹介

(敬称略)

氏名	団体名等	備考
原田 康浩	北見工業大学	
宮田 博行	美幌観光物産協会	
信太 真人	美幌観光物産協会	
円舘 綾子	美幌観光物産協会	
伊藤 健一	美幌商工会議所	
幸田 英治	美幌商工会議所	
泊り 誠一	美幌町農業協同組合	
弥三谷 和貴	美幌食堂組合	
田中 桃子	道の駅運営事業者 (株) TAISHI	
奥山 真由美	峠の湯びほろ指定管理者 (株) 道央環境センター	
小林 明弘	地域おこし協力隊	
滝川 朗正	ピーカン企画	
野口 富弘	(株) フォンブラン	
河端 勲	美幌町経済部長	

## 4 策定会議の基本事項について

### (1) 会長・副会長の選出について

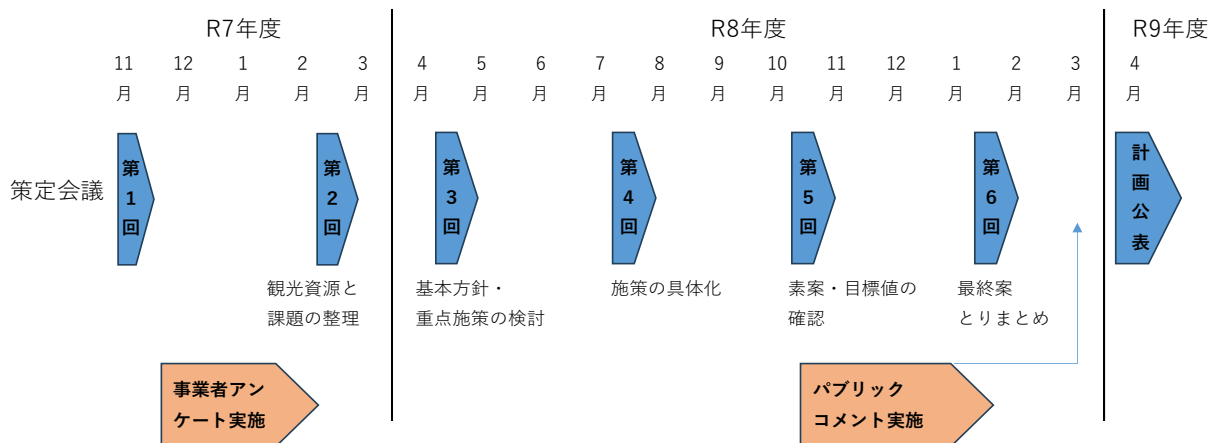
会長 ( )

副会長 ( )

### (2) 会議の開催回数・スケジュールの確認 (案)

第2回	R8.2～3	観光資源と課題の整理
第3回	R8.4～5	基本方針・重点施策の検討
第4回	R8.7～8	施策の具体化
第5回	R8.10～11	素案・目標値の確認
第6回	R9.1～2 R9.3	最終案のとりまとめ (美幌町議会常任委員会説明) パブリックコメント後、最終的な計画策定

予定表



pp

※各回の会議は90分程度を想定。

※住民・観光事業者向けアンケートを会議と並行して実施し、結果を各回に反映。

## 5 ビジョンの位置づけ・目的の共有

### (1) 町総合計画との関係

観光振興革新戦略ビジョンは総合計画の分野別計画（産業・観光分野）として位置づけ、総合計画の将来像・基本目標を観光分野で具体化するための実行計画（アクション計画）。

総合計画＝「何を目指すか」、観光振興革新戦略ビジョン＝「どう実現するか（施策・事業）」という役割分担で、政策体系の上位一下位の関係。

### (2) 策定の目的、観光の現状と課題

観光振興革新戦略ビジョンは、ばらばらの取組を「目的・優先順位・役割分担・指標」で束ね、限られた資源で最大の効果を出すためのまちの公式な方針です。本ビジョンは、美幌町総合計画の分野別計画として、観光を地域経済と暮らしの双方に資する計画として位置づけ、限られた人的・財政的資源を重点分野へ集中させるための方針と実行枠組みを示すことを目的とする。

#### 【主な課題の一例】

- ・ 滞在環境の不足  
夜間・悪天候時も楽しめるコンテンツ不足、宿泊誘導の弱さ。
- ・ 回遊性と二次交通  
峠・市街・近隣観光地を結ぶ移動手段と導線設計が不十分。
- ・ 受入環境  
多言語案内・駐車場等の基本整備。
- ・ 商品造成と通年化  
自然・農を活かした体験、教育旅行等グリーンツーリズムの磨き上げと季節分散。
- ・ 広域連携  
阿寒摩周・オホーツク圏との周遊ルート造成、共同プロモーション

### (3) 計画期間について

総合計画と合わせ12年間とし、前期・中期・後期の4年ごとに施策の見直しを図る。

## 6 現行ビジョンの検証、次期ビジョンの基本方針

### (1) (現行) 美幌町観光振興革新戦略ビジョン 概要

#### 1 ビジョンの概要

本ビジョンは、平成 28 年度から令和 8 年度までを対象とする長期観光戦略であり、コンセプトを「ホッとする町！！～きっと行きたくなる癒しのまち“びほろ”～」として策定されました。

新たな観光資源として体験型観光などを推進するため、「観光ひとづくり」「観光ものづくり」「観光まちづくり」をキーワードとし、3つの連携を図りながら以下の基本方針を定め、観光振興を推進してきました。

基本方針は次のとおりです。

- ① 人材育成の促進
- ② 関係機関・団体との連携強化
- ③ 情報発信
- ④ みどりの村の利活用
- ⑤ 滞留型・滞在型・体験型観光の推進
- ⑥ 緑化による観光の推進
- ⑦ 安全・安心な観光地づくりの推進
- ⑧ 地域資源の利活用
- ⑨ イベントの充実

#### 2 実績の整理

観光入込数等の推移、アクションプランの実績・・・別紙資料 2

### 3 観光入込数における北海道全体との比較

北海道全体では、コロナ禍前の令和元年（2019年）に観光入込客数が延べ5,000万人規模、宿泊者数も約3,000万人規模に達し、特に外国人旅行者を中心としたインバウンド需要が大きく伸びていました。しかし、令和2年度（2020年）には新型コロナウイルス感染症の影響により、入込数・宿泊者数ともに半減以下となり、外国人宿泊者はほぼ消失しました。その後は国内観光需要を中心に回復が進み、令和6年度には観光入込数がコロナ前の約9割にまで回復し、宿泊者数については約4,202万人とコロナ前を上回る状況となっています。

本町においても同様の傾向が見られます。コロナ禍前には美幌峠や道の駅を中心に年間約70万人規模の来訪があり、教育旅行やスポーツ合宿による宿泊も一定程度確保されていました。しかし、令和2年度以降はコロナ禍の影響を強く受け、入込数・宿泊者数ともに大幅に減少し、さらに美幌グランドホテルの閉館も重なったことで宿泊需要の落ち込みは顕著となりました。

こうした中、令和4年4月には美幌峠レストハウス1階を商工会議所主体で全面リニューアルしたことにより来訪者数が大幅に回復しました。さらに、令和5年12月には美幌グランドホテル跡地に新たなビジネスホテルが開業し、その後は観光需要の回復に伴い入込数・宿泊者数ともにコロナ前の水準まで回復しています。加えて、開業から約30年を経過し老朽化が進む峠の湯びほろにおいても、コロナ禍以降は入浴客数が増加に転じ、令和6年度には約12万人を記録するなど、観光入込数の押し上げに寄与しています。

しかしながら、本町観光は依然として通過型・日帰り型が中心であり、滞在型観光への転換が今後の重要な課題となっています。

### 4 まとめ

本ビジョンは、長期的な観光戦略のもとで一定の成果を挙げ、コロナ禍という未曾有の事態においても、観光需要の回復に対応することができました。特に、美幌峠レストハウスのリニューアルや新たな宿泊施設の開業は、来訪者の受け入れ環境を大きく改善し、地域観光の回復に寄与しました。

一方で、現行ビジョンで掲げた目標に対しては、依然として多くの課題が残されています。まず、美幌峠を中心とした通過型・日帰り型観光からの転換が十分に進んでいないことが挙げられます。町内滞在時間の短さ、滞在につながるコンテンツの不足、体験プログラムの量・質の課題など、滞在価値の向上には引き続き取組が必要です。

加えて、観光事業者数の少なさなどにより、地域全体として観光を担う人材の不足が課題となっています。SNS・動画・WEBを活用したデジタルマーケティングの強化も不可欠であり、町としてのブランドメッセージを一体的に発信する体制づくりも求められています。

さらに、観光客の利便性を左右する二次交通の弱さも大きな課題です。女満別空港から美幌・美幌峠方面への直通バスが運行されていないことや、美幌峠へアクセスする定期バスが存在しないことから、公共交通のみでの来訪が極めて困難な状況にあります。事業者間の連携や観光物産協会・商工会議所等の体制強化も引き続きの課題です。

地域内には多様で魅力的な観光素材が存在するものの、情報発信が断片的であり、町としてのストーリー性を十分に示しきれていない点も指摘されます。

次期計画においては、屈斜路カルデラトレイルやみどりの村再整備といった新たな取り組みを適切に位置づけるとともに、広域観光や地域資源との連携を一層深め、持続可能な観光振興と地域活性化の実現を図っていくことが求められます。

## 5 次期ビジョンの方向性

次期ビジョンにおいては、新たに整備される観光資源や施設の利活用を明確に位置づけることが重要です。特に、令和6年10月に開通した屈斜路カルデラトレイルは、地域の自然環境を生かした滞在型・体験型観光の核となり得るものであり、広域観光ルートの形成や新たな誘客施策との連動が期待されます。

また、令和7年度から令和8年度にかけて実施予定のみどりの村再整備については、地域住民の交流や観光拠点としての機能強化に資するものであり、環境教育やアクティビティ拠点としての利活用が見込まれます。

これらの新規施策を次期計画に戦略的に取り込むことにより、観光振興のみならず地域全体の魅力向上と交流人口の拡大を図ることが可能となります。したがって、今後の計画立案においては、両事業の具体的な利活用方策や連携施策の検討が不可欠です。

## (2) 第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン構成案

### 第1章 基本的な考え方

計画の目的、計画の位置づけ、計画期間 など

### 第2章 観光をめぐる動向

国・北海道の取組、国内旅行・訪日外国人旅行の動向、北海道観光の動向、美幌町の観光の現状と課題

### **第3章 計画の基本的な方針**

目指す将来像、成果指標、施策の方向性

### **第4章 施策の展開**

役割の明確化、ターゲット別の戦略的体系に

### 第5章 計画の推進と進捗管理

推進体制、進捗管理の方法

## 7 今後の進め方の整理（第2回以降の議題、次回日程の確認）

観光資源と課題を整理するための共通認識形成を議題とするため、各事業所（商工会議所会員）へアンケートを依頼し、集計結果をもとに次回議案を作成。